



乳がんを知ろう

ピンクリボン通信 vol.12

乳がん検診のメリット・
デメリットは？

メリット

- ・ 早期発見、早期治療で命が助かる
- ・ 早期発見により、治療費や治療の負荷を抑えられる可能性がある
- ・ 早期発見により、切除部分を少なくし乳房を温存できる可能性が高まる
- ・ リンパ節の切除も少なく抑えられれば、術後のQOL（生活の質）が向上する
- ・ 「異常なし」の判定が下れば、「がんがない」ことで安心できる

デメリット

- ・ がん検診でがんが100%見つかるわけではない
- ・ 「がん」かもしれないという不安に襲われる
- ・ 精密検査の結果「がん」でなかった場合（偽陽性）でも精神的苦痛がある
- ・ 検診や治療のための医療費が発生する
- ・ 痛みを伴う検査を受ける身体的苦痛がある
- ・ 検診や検査のために時間がとられ、社会的損失が生じる
- ・ 放射線誘発性乳がんリスクがある
- ・ 生命に影響しない乳がんを発見し、不必要な治療を行うきっかけになる

検診開始の年齢

厚生労働省では、自治体による乳がん検診の対象年齢を**40歳以上**とし、**39歳以下**の女性を**対象外**とするように提言しています。しかし**20歳代**、**30歳代**で乳がんが見つかる方もいます。乳がん検診の開始年齢は、自己検診も含めて**自分で**決められます。以下のような方は**40歳**より早めに、自分が費用を負担する**任意型検診（人間ドック）**を開始しても良いでしょう。

- 家族に乳がんや卵巣がんになった方がいる
- 良性乳腺疾患がある
- 長期間ピルを使用している

利益と不利益のバランスが重要

現在、**40歳代**の乳がん検診に関する利益と不利益について、検証が続いています。日本では、針生検まで行う症例が少ないこと、精密検査のための画像診断の費用が安いことなどにより、**40歳代**においても利益が大きいと考えられています。



参考文献：ピンクリボンと乳がんまなびBOOK

©藤田医科大学ばんだね病院放射線部